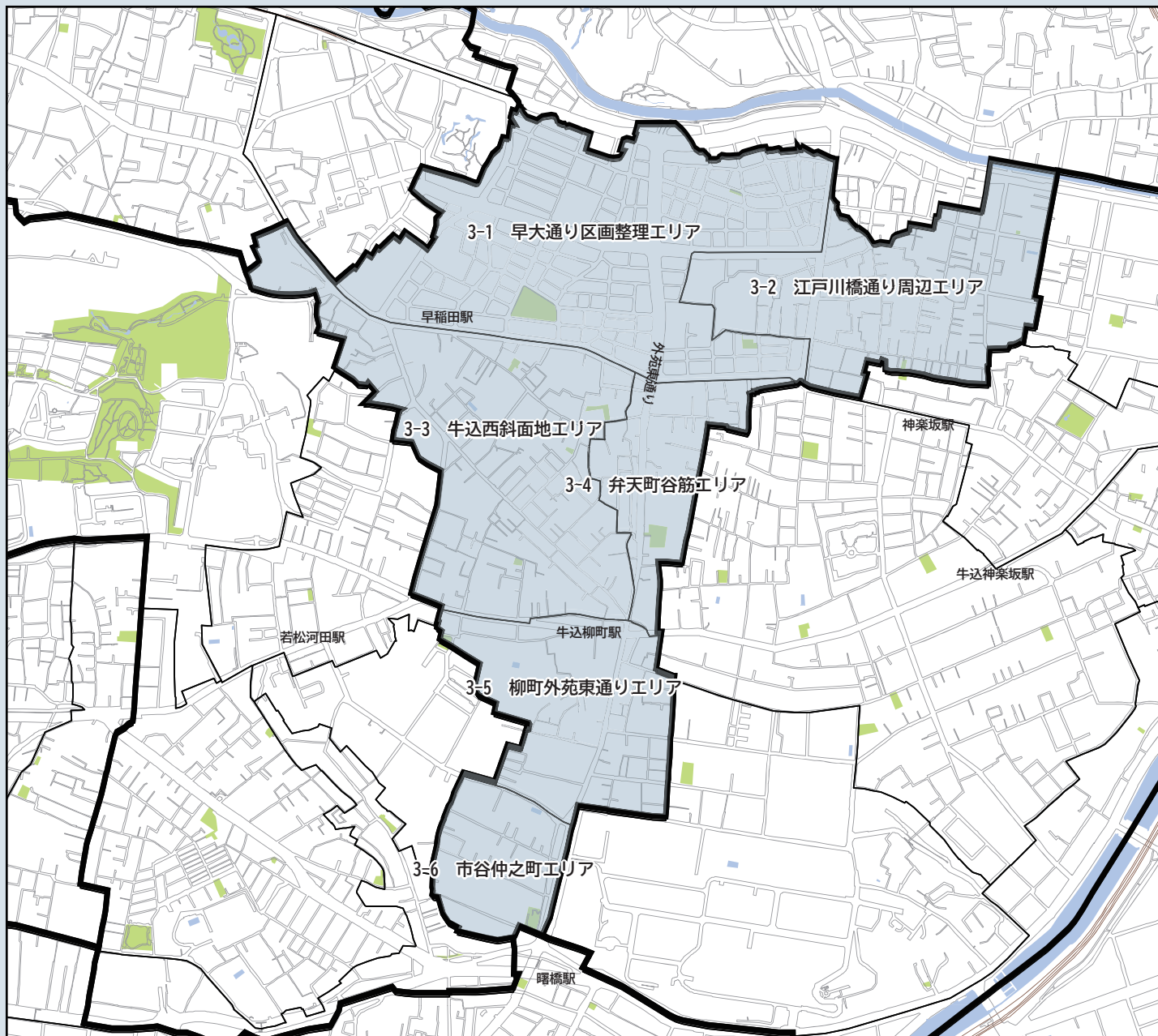


3 榎地域

榎地域は、新宿区の北東に位置し、江戸時代には武家地と江戸中心部より移転した寺社地が多くを占めており、神田川周辺の低地はまだ農村でした。現在では、武家地や寺社地であった牛込台地と北側の斜面地上に閑静な住宅地があり、農村であった低地には印刷製本業が集積しています。地域の中央には外苑東通りが谷地に沿って通っています。



3-1 早大通り区画整理エリア

ゆとりある道路を活かした多様な表情を持つまちなみへ

3-2 江戸川橋通り周辺エリア

空とみどりを感じるゆとりと潤いあるまちなみへ

3-3 牛込西斜面地エリア

地形・歴史を感じる眺めを活かしたみどり豊かなまちなみへ

3-4 弁天町谷筋エリア

変化に富んだ地形による解放感ある眺めを活かしたまちなみへ

3-5 柳町外苑東通りエリア

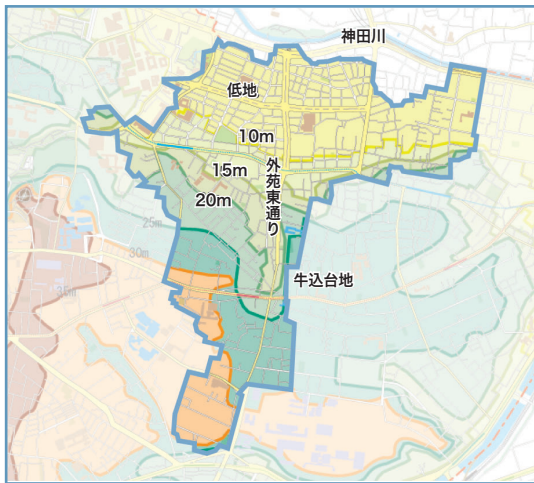
新しい外苑東通りを中心とした賑わいとみどりがあふれるまちなみへ

3-6 市谷仲之町エリア

みどり豊かで閑静な住宅が連なるまちなみへ

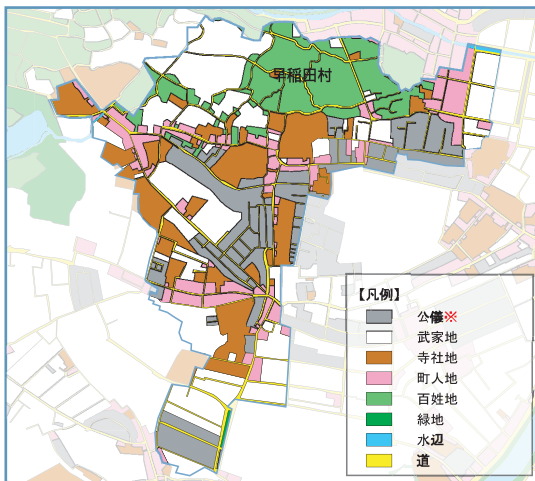
地域の概要

変化に富んだ地形



榎地域の地形

まちの記憶や文化



江戸時代末期の土地利用

※幕府直轄の施設用地。火除地や河岸などの他、同僚の御家人に一括して与えられた粗屋敷地も含む。

神田川沿いの低地

神田川沿いには平坦な低地が広がり、地場産業である印刷製本業が集積しています。この低地は、区画整理事業により整った道路基盤となった区域と、農村の基盤をそのまま継承した住宅の密集した区域に大きく二分されます。

台地に切り込む谷地

地域の中央には、牛込台地に切り込むかたちで、谷地が細長く入り組んでいます。この谷地に沿って、地域を縦断する外苑東通りが通っています。地域の南側の台地上にはゆとりある住宅地のまちなみが広がっています。

【3-6 市谷仲之町エリア】
台地上のゆとりあるまちなみ【3-4 弁天町谷筋エリア】
谷地に下る階段状からの眺め

武家地と寺社地

現在の道路の多くは、江戸時代から受け継がれてきたものです。地域の北側にあった大規模な武家地は明治時代に敷地分割され、現在の早稲田大学周辺のまちなみを生み出しました。また、台地上や斜面地に立地していた寺社の多くは、現在もそのまま残っています。

区画整理

地域の北側の早稲田鶴巻町、山吹町周辺では、戦災復興事業として大規模な区画整理が行われました。その結果、現在の早大通りに代表される整然としたゆとりのあるまちなみとなりました。

外苑東通り

地域を縦断する外苑東通りは現在拡幅工事が進められています。それに合わせて沿道の建築物の更新も進んでいます。

【3-1 早大通り区画整理エリア】
ゆとりある道路景観と豊かなみどり【3-5 柳町外苑東通りエリア】
谷地を通る路地沿いに連なるみどり

水とみどり



緑被現況分布図

早大通りの街路樹と寺社のみどり

早大通りの中央に並ぶけやきは、重要な景観資源*となっています。また、地域の西端の高台に位置する穴八幡宮をはじめとする寺社の境内の豊かなみどりがまちなみに潤いを与えています。

地形を活かしたみどり

台地上の住宅地では庭先に豊かなみどりがああります。斜面地には、寺社の境内のみどりがああり、谷地の住宅地からまちなみの背景に奥行きあるみどりを眺めることができます。

【3-2 江戸川橋通り周辺エリア】
大規模な田中寺と周囲の生垣【3-3 牛込西斜面地エリア】
高台に立地する穴八幡宮

3-1 早大通り区画整理エリア

実施時期は異なるものの、全体的に区画整理事業が実施されたエリアです。早大通りを中心として、比較的幅員の大きい道路が直交しているため、整ったまちなみとなっています。一方で、昔から残る道路や緩やかな高低差のある地形などによる道路の屈折、大きくすみ切り*されたコーナーなどが変化のある景観を創出しています。



景観特性



1. ゆとりある道路景観



中央にけやき並木を有する早大通りは、ゆとりある道路景観を生み出しています。エリア内の各道路は直線で見通しも良く、交差点は大きくすみ切り*されているため、ゆとりを感じます。また、公園や街路樹などのアイストップ*のみどりも、まちなみにゆとりと潤いをもたらしています。

2. 異なる時期の区画整理事業



早大通りの北側では、4つの異なる時期に区画整理が行われました。そのため、それぞれの境目などで道路の方向や取り付けのずれが生じています。また南側では、昔から残る道路や緩やかな高低差のある地形による屈折などによって、変化のある景観となっています。

3. 大きなすみ切りのあるコーナー



戦災復興土地区画整理事業では、交差点で大規模なすみ切り*が行われました。このすみ切りの線に沿って建築物が建ち、開口部*や装飾で魅力的なまちかどをつくっています。

ゆとりある道路を活かした多様な表情を持つまちなみへ

整った道路基盤を持つこのエリアでは、早大通り沿道のまちなみや視線が集まるすみ切りされた交差点を活かし、個性的なまちなみを創出する。

景観形成の方針

1. 早大通りのけやきが映えるまちなみをつくる

景観形成の考え方

景観資源*であるけやきの街路樹を中心とした早大通りならではのまちなみをつくる。

具体的な方策

- 素材や色彩は、けやきのみどりと調和する落ち着いたものとするか、みどりが映りこむガラスのカーテンウォールとする
- 街路樹のケヤキの植樹間隔を考慮し、壁面の分節化を図る
- 壁面の位置の連続性に配慮する
- 屋上広告物は、設置しないようにするか、建築物と一体的に計画し周囲からの見え方に配慮する
- 大隈講堂への眺めや大隈庭園からの眺めに配慮した形態意匠*および色彩とする
- 低層部*の賑わいを創出しつつ安心感を感じられる照明計画とする



けやきの間から顔を覗かせるまちなみ

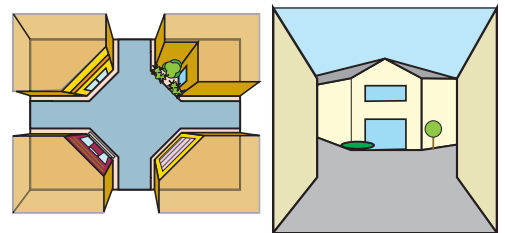
2. コーナー部分を活かした魅力的なまちかどをつくる

景観形成の考え方

大きなすみ切り線に合わせて建築物の形態や意匠*を工夫し、コーナー部分を活かした魅力的なまちかどをつくる。

具体的な方策

- すみ切りのある交差点では、建築物はすみ切り線に合わせて壁面をつくり、エントランスや開口部を設けるようにする
- T字路や叉路では、アイストップの位置にあたる角地を緑化するか、または外壁の素材や意匠を工夫する



一つ一つのコーナーに表情をつける

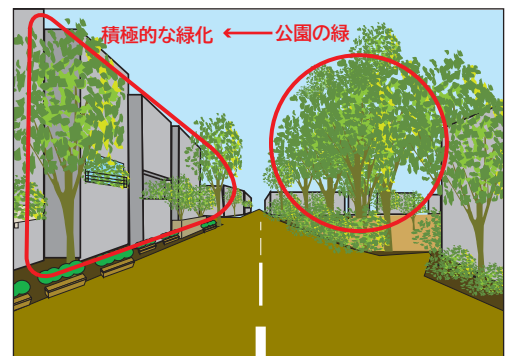
3. 大規模な緑地である公園・寺社を中心にまとまったみどりを創出する

景観形成の考え方

景観資源である鶴巻南公園や済松寺の周囲では落ち着いた雰囲気と調和するみどり豊かな景観をつくる。

具体的な方策

- 鶴巻南公園や済松寺の樹木のうち、エリア内の街路からの見通し上に位置するものは極力保存する
- 鶴巻南公園や済松寺の周囲の建築物は積極的に緑化を行う
- 鶴巻南公園や済松寺の周囲の建築物はみどりと調和するような色彩や素材とし、特に彩度*の高いものは避ける



公園や寺社のみどりと連続するみどりを創出する

3-2 江戸川橋通り周辺エリア

早稲田方面から繋がる低地に位置する江戸川橋通り周辺エリアは、エリア全体に点在する印刷製本工場が動きのあるまちなみを生み出しています。江戸時代から残る東西方向の道路の沿道が、特徴的な景観となっていますが、江戸時代に市街地だったところと農村だったところでは、現在でも大きく異なる道路景観となっています。



景観特性

広場のような六叉路の交差点が視線が集る景観の焦点となっています。

蟹川が暗渠化された旧河川道であり、特徴的なシークエンス景観を生んでいます。

幹線街路に面していない大規模工場。周りの建物とスケールの違いがその存在を際立たせています。

早大通り区画整理

3-4 分天町谷筋

赤城神社と済松寺を両端に持つ江戸時代からの道です。

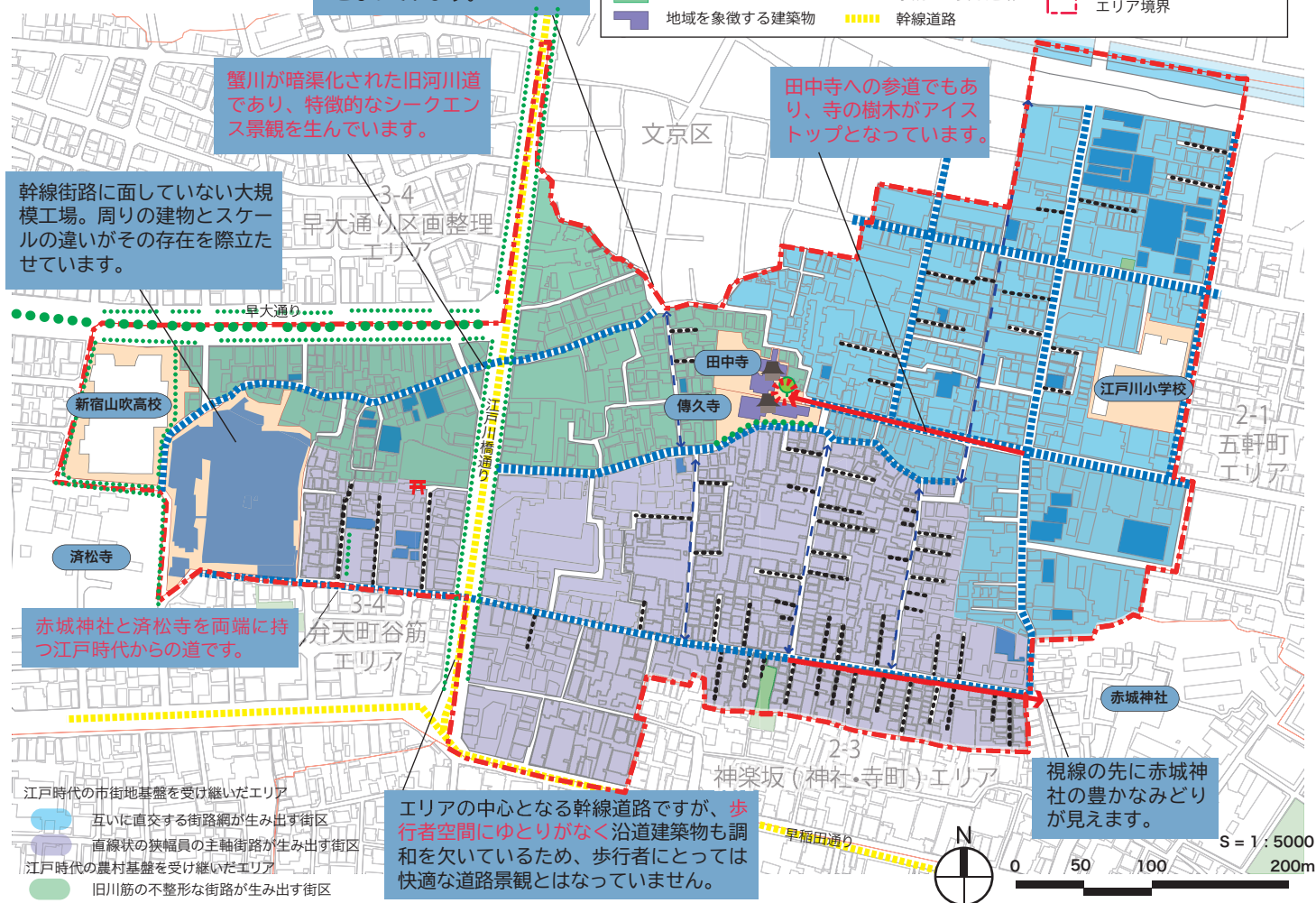
江戸時代の市街地基盤を受け継いだエリア
互いに直交する街路網が生み出す街区
直線状の狭幅員の主軸街路が生み出す街区
江戸時代の農村基盤を受け継いだエリア
旧川筋の不整形な街路が生み出す街区

エリアの中心となる幹線道路ですが、歩行者空間にゆとりがなく沿道建築物も調和を欠いているため、歩行者にとっては快適な道路景観とはなっていません。

田中寺への参道でもあり、寺の樹木がアイストップとなっています。

視線の先に赤城神社の豊かなみどりが見えます。

【凡例】			
← 視線方向・重要な軸線	アイストップ	主軸同士をつなぐ直線道路	
神社	重要なみどり (一部保護樹木を含む)	行き止まりの路地	
寺	連続するみどり	大規模な敷地	
公園	景観上重要な道路	特徴的な印刷製本工場	
地域を象徴する建築物	幹線道路	エリア境界	



1. 整った景観と変化のある景観



このエリアは江戸時代の市街地と農村との境界にあたります。現在でも、互いに直交する道路や、直線の主要道路と路地からなる整った景観と、かつて河川の流路であった幅員の狭い折れ曲がった道路を中心とした変化に富んだ景観とが隣り合わせにあります。

2. 地場産業のある景観



筆筈地域の五軒町エリアから連続して、エリア全域にわたって、小規模な印刷製本工場が点在しています。自動車の通れないような細く折れ曲がった道路沿いにまで工場が立地しています。動きのある生業の風景がこのエリアの特徴となっています。

3. 大規模な寺院・工場・学校



江戸時代から続く田中寺、傳久寺のおもむきとみどりが、周囲の景観に落ち着きと潤いを与えています。一方で、大日本印刷(株)榎町工場はエリア内では数少ない大規模敷地で、長大な壁が続いています。

空とみどりを感じるゆとりと潤いのあるまちなみへ

低層の建築物が密集し、印刷製本工場と住宅が混在したこのエリアでは、すっきりしたスカイライン*の形成と低めの位置への緑化により、ゆとりと潤いを創出する。

景観形成の方針

1. 路地から見える空を広げみどりで潤いを創出する

景観形成の考え方

高い塀や高層の建物による圧迫感を軽減し、ゆとりと潤いを創出する。

具体的な方策

- 垣・さくは高さを抑え、生垣や閉鎖的でないものとする
- アイスストップ*に位置する場合は、路地に対して圧迫感を与えないよう路地側の部分で中高木等による緑化を行う



空の広がり足元のみどり

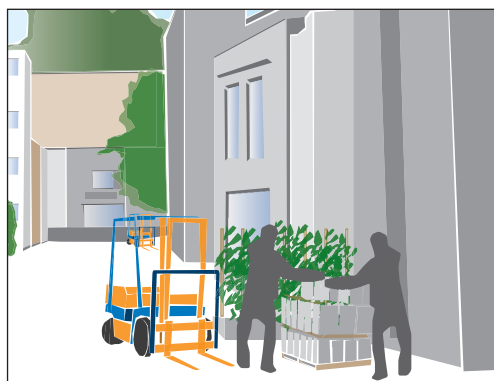
2. 地場産業と住環境とを調和させる

景観形成の考え方

印刷製本工場と住宅地とが、みどりでつながり、全体として調和した景観をつくる。

具体的な方策

- 大規模な工場の敷地際は、積極的に緑化を行う
- 小規模工場の隣地境界線や道路沿いには植栽帯を設け、積極的に緑化を行う
- 夜間景観に配慮し、道路沿いには照明等を設置する



緑化による周辺住宅地への配慮

3. 変化に富んだまちなみを継承する

景観形成の考え方

旧川筋の変化に富んだ不整形な街路が生み出すまちなみを継承する。

具体的な方策

- 敷地統合の際は、既存のまちなみに配慮し、分棟による配置や壁面の分節化を行う

4. 田中寺・傳久寺の雰囲気と調和した景観をつくる

景観形成の考え方

本エリアのみどり・歴史の中心である寺院の雰囲気と調和した周囲の景観をつくる。

具体的な方策

- 寺院の参道沿いでは、寺院への眺めを妨げないよう配慮する
- 寺院の周囲では積極的に緑化を行う



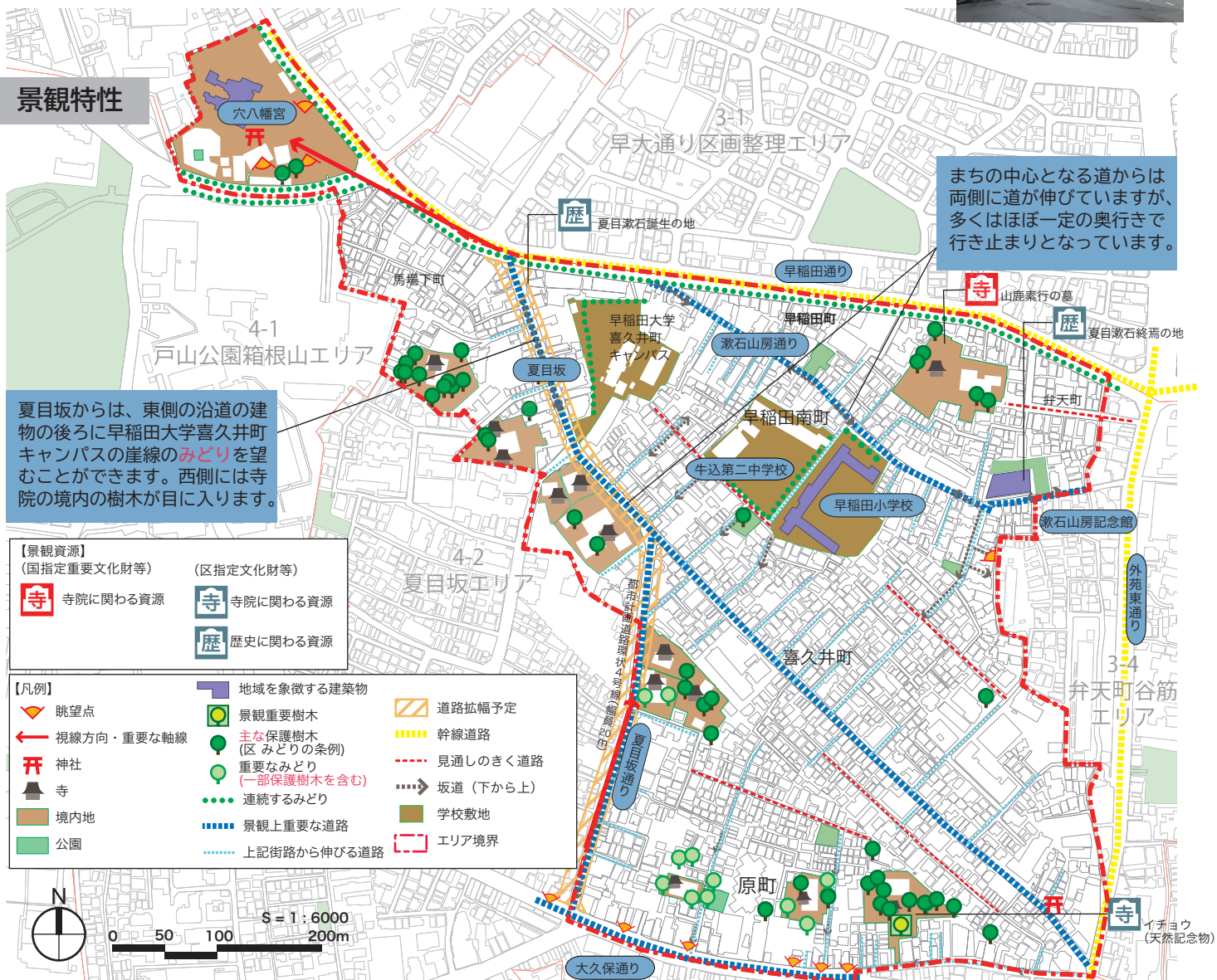
寺院と調和したみどりが豊かな参道の景観をまちのシンボルとして創出するイメージ

3-3 牛込西斜面地エリア

エリア全体が、南側から徐々に北側へ向かって下る斜面地となっています。西端の高台には、みどり豊かな穴八幡神社があります。江戸時代から残るエリアを斜めに横切る道路を中心として、まちなみが形成されています。エリア内には寺社が数多くあり、落ち着いた雰囲気となっています。



景観特性



まちの中心となる道からは両側に道が伸びていますが、多くはほぼ一定の奥行きで行き止まりとなっています。

夏目坂からは、東側の沿道の建物の後ろに早稲田大学喜久井町キャンパスの崖線のみどりを望むことができます。西側には寺院の境内の樹木が目に入ります。

1. 地形を感じるみどり豊かな眺め



台地上を通りすぐ北側が斜面地となっている大久保通りからは、交差点や建築物の間から北側に向かう眺望が得られます。そのほかにも様々な地点で地形の起伏を感じる眺めが得られるとともに、住宅からあふれ出したみどりが眺めに潤いを与えています。

2. まちなみの中心となる道路



早稲田南町や喜久井町を通るエリアを斜めに横切る道路は、歩行者のメインルートとなっています。低層の住宅や、小規模な店舗が密に並んでいます。その他の道路はほぼ全て、この道路から枝分かれして伸びています。また、夏目坂や漱石山房通りは夏目漱石ゆかりの通りです。

3. 歴史を感じる多様な景観資源*



台地の先端部に位置する穴八幡宮、斜面地中腹に立地する寺院、漱石山房記念館、歴史ある小学校・中学校・大学など、エリア内には歴史的な景観資源が数多く存在し、エリアの景観に時間的奥行きを与えています。これらの景観資源の周囲には、斜面地のみどりなどのまとったみどりが存在し、周囲に潤いを与えています。

地形・歴史を感じる眺めを活かしたみどり豊かなまちなみへ

斜面地の地形を活かした眺めと、歴史を感じる資源を中心にみどり豊かでおもむきのある景観を創出する。

景観形成の方針

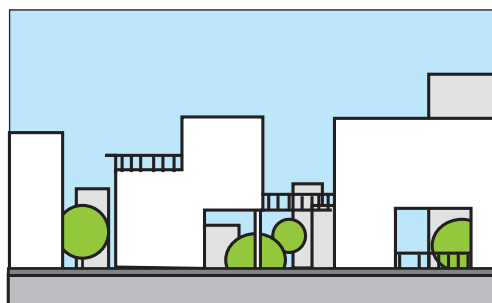
1. 地形を感じられる眺めを保全する

景観形成の考え方

大久保通りから斜面下への眺め^他、エリア内に数多く存在する地形を感じられる眺めを保全、創出する。

具体的な方策

- 大久保通りの北側、夏目坂の東側に建つ建物については、敷地奥まで続く空地やピロティ*等を設けるなど、視線が抜けて地形やみどりへの見通しが得られるように工夫する
- 寺社のみどりへの見通しを妨げないよう工夫をする
- 公園などのオープンスペース*からの坂道の眺めを保全する



視線が抜けるように開口部*やピロティを設置し、建築物を分節化する

2. 古くから残る生活道路沿いの

みどり豊かな景観をつくる

景観形成の考え方

エリアを斜めに横切る道路沿いでは積極的な緑化を行い、みどり豊かな景観をつくる。

具体的な方策

- 道路沿いは、積極的に緑化を行い、駐車スペースなどについても緑化ブロックなどで工夫する
- 路地の入り口や交差点は、特に積極的に緑化を行う



小さなみどりが重なり合うまちなみ

3. 歴史的な景観資源を中心に落ち着いた

おもむきのある景観をつくる

景観形成の考え方

エリア内に多数存在する寺社仏閣、早稲田小学校、漱石山房記念館などの景観資源と調和した景観をつくる。

具体的な方策

- 寺社のまとまったみどりを保全する
- 寺社周辺では、神社の雰囲気と調和し落ち着いた形態意匠*および色彩とする
- 特に、境内から見える場合は、境内からの眺めに配慮した形態意匠および色彩とする
- 早稲田小学校の校舎を地域景観のシンボルとして保全する
- 早稲田小学校周辺に見られる歴史を感じさせる大谷石の基壇の雰囲気や桜並木を保全する
- 夏目坂、夏目坂通り及び漱石山房通り沿いでは落ち着いた形態意匠及び色彩とする



漱石山房記念館



早稲田小学校のまわりの季節感豊かな景観

3-4 弁天町谷筋エリア

外苑東通り沿いは狭い谷地となっています。一番低い場所は外苑東通りの西側のむかしの川筋の道路です。その谷地に向かって東西から、坂道や階段が降りてきているのが特徴です。東側の台地上からは、遠くまで一望することができます。また、寺社も多く、落ち着いた景観となっています。



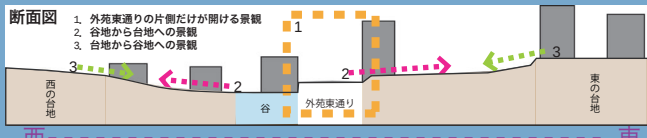
景観特性

かつて河川の流路であったこの道路が一番低い場所となっています。自然の流れにそって蛇行を繰り返し、変化のある景観となっています。

エリア内にある狭く急な坂道や階段は、沿道の建築物の基壇や植栽などと共に特徴的な景観を生み出しています。

緩やかに続く坂道沿いの建築物は、道の傾斜に合わせて徐々に高さを変化していき、穏やかな景観を生み出しています。

拡幅工事が進む外苑東通りは、周囲に比べ大きなスケールの道となるため、沿道の建物の意匠や、景観形成に配慮する必要があります。



東側の台地上から西側を見ると、エリアを遠く広く展望できます。



0 50 100 200m
S = 1 : 4000

1. 激しい高低差が生み出す景観



谷の中腹に伸びている外苑東通りでは、西側が谷地となっているため、通りの西側と東側で高低差が生じており左右非対称の街路景観となっています。また、外苑東通りでは拡幅工事に伴って沿道建築物の更新が進んでいます。

2. 谷地と台地をつなぐ坂道と階段



外苑東通りとその1つ西側の通りに向かって、台地上から階段や坂道が降りてきています。U字型の地形のため見通しは良くありませんが、地形を強く感じる景観となっています。坂の上からは、谷地や谷地を挟んで反対側の台地の景観を眺めることができます。

3. 斜面地のオープンスペース*



外苑東通りの東側には、寺院等によるみどりや空地が多くあり、台地上から谷地を眺めることができます。また、寺院のみどりは、台地上の閑静な住宅街と幹線道路の喧騒との緩衝帯となるとともに、周辺の住宅地に落ち着きと潤いを与えています。

変化に富んだ地形による開放感のある眺めを活かしたまちなみへ

谷地沿いの特徴的な景観を活かし、寺社や坂道、階段による落ち着きあるまちなみを創出する。

景観形成の方針

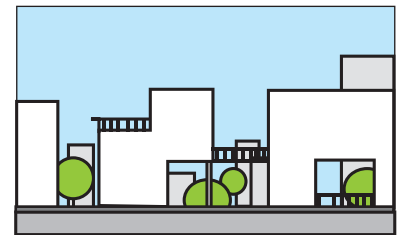
1. 崖上や台地上からの 地形を感じる眺めを保全・創出する

景観形成の考え方

外苑東通り沿道の視界が開ける景観や台地の上からの眺めを保全、創出する。

具体的な方策

- 崖上や台地上から谷地側を見通せるように工夫する（開口部*、ピロティ*等）
- 崖上や台地上、外苑東通り沿いでは、壁面の分節化を図り、長大な壁とならないように配慮する
- 駐車場等の周囲の垣・さくは閉鎖的でないものとする
- 崖上や台地上からの眺めに配慮した形態意匠*、色彩及び照明計画とし、積極的に屋上や壁面を緑化をする
- 外苑東通り沿いではスカイライン*やファサード*の連続性を意識した形態意匠とする



台地上から谷地側を見通せるように開口部やピロティを設置する



道路の防護柵越しに見える谷地のみどり

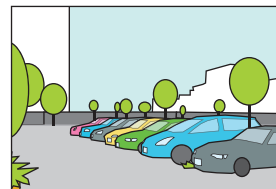
2. みどりで寺院などの空地の魅力を高める

景観形成の考え方

外苑東通りと台地上との間に残る空地を守り、積極的に緑化を行う。

具体的な方策

- 既存の樹木を保全し、建築物等の配置は樹木への眺めを妨げないように配慮する
- 駐車場の周囲は連続する生垣等で囲む



駐車場などの空地に視線を遮らない程度にみどりを配置する



斜面地の寺院によるみどりの空間

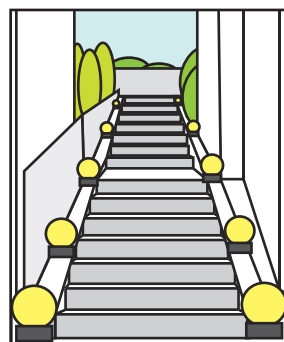
3. 坂道や階段を活かした景観をつくる

景観形成の考え方

エリアを特徴づける坂道や階段沿いでは、坂道や階段の雰囲気を活かした魅力的な景観をつくる。

具体的な方策

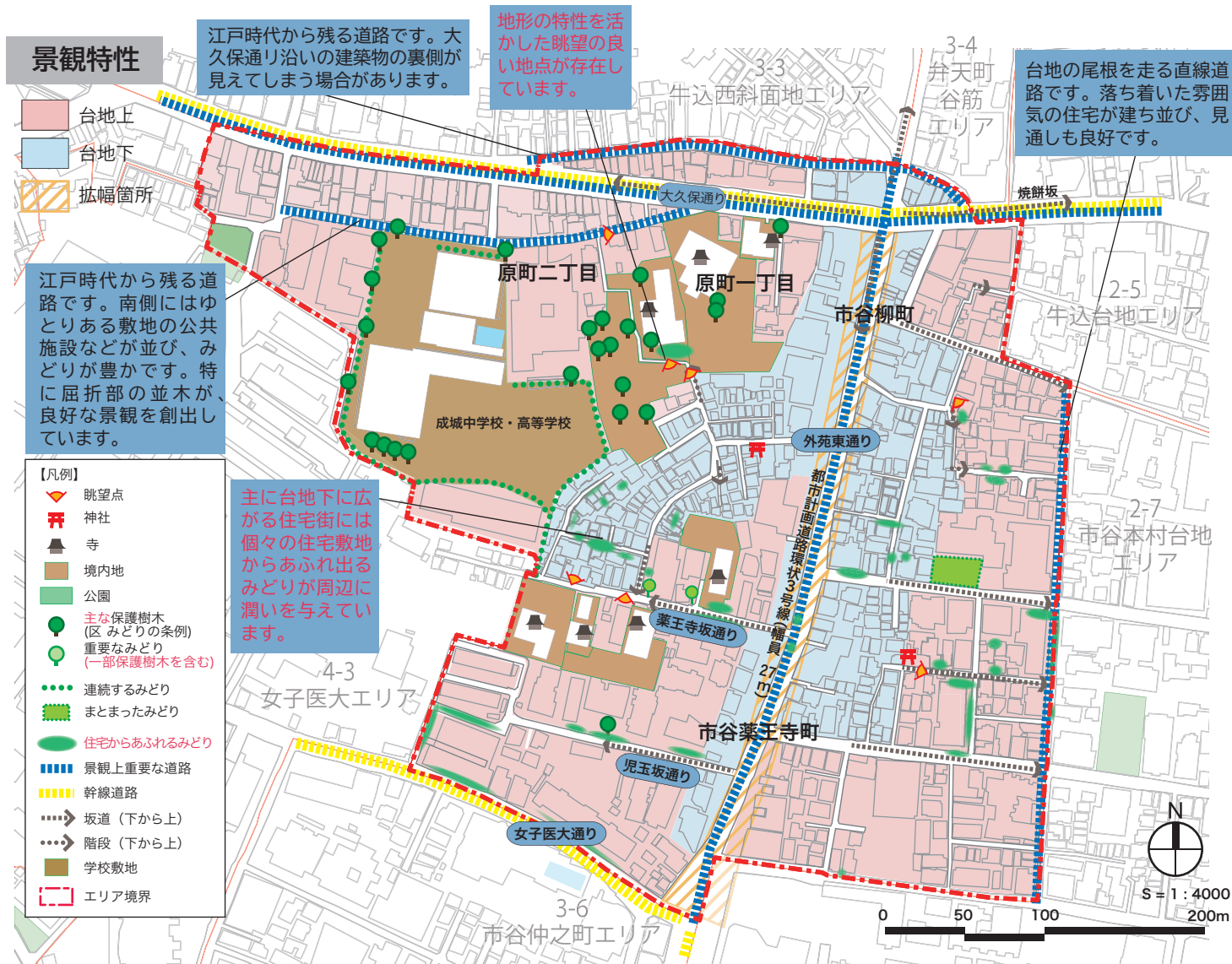
- 擁壁上部の垣・さくは高さを抑える
- 擁壁は周囲と調和し、圧迫感を与えないものとなるよう工夫する（壁面緑化を行う、自然素材を用いる、分節化を図る など）
- 道路沿いには、空地をとり、植栽帯を設ける
- 安全性とともに夜の雰囲気を高める足元の照明灯を設置する



坂道の雰囲気

3-5 柳町外苑東通りエリア

東西の台地に挟まれた中央の谷地沿いに、外苑東通りが通るエリアです。牛込柳町の交差点付近が、一番低い場所となっています。外苑東通り沿道では拡幅に伴う、まちなみの大きな変化が予想されます。台地下の低地では住宅が密集し、生活感あふれるまちなみとなっています。一方、台地上では寺社や学校などがゆとりをもって立地し、比較的大規模な建築物が整然と建ち並んでいます。



1. 拡幅が行われた外苑東通り



エリアの中心を縦断する外苑東通りでは道路拡幅が行われました。拡幅工事後も、これまでの小規模な店舗を中心としたまちなみを継承し、周辺の落ち着いた雰囲気と調和の取れた沿道景観が形成されています。

2. 台地上の整然としたまちなみ



市谷薬王寺町の東側と大久保通り沿道には、みどり豊かで敷地規模の大きい低中層建築物が多くあり、全体として整った景観となっています。エリア北側では、学校や寺社のみどりが良好な沿道景観を創出しています。また、台地上には台地下を眺望できる視点が複数あります。

3. 低地の生活感あふれるまちなみ



低地には整った道路基盤はないものの、路地沿いに身近なみどりがあふれ出し、生活感のある心地よいまちなみが広がっています。台地上の学校や、寺社のみどりが路地景観に奥行きを与えています。細街路整備と同時に、現在の景観を保全していく、工夫が必要です。

新しい外苑東通りを中心とした賑わいとみどりがあふれるまちなみへ

拡幅が行われた外苑東通り沿いを賑わいとみどりがあふれるまちなみとし、
周辺の台地上・台地下の個性豊かな道を活かした景観を保全・創出する。

景観形成の方針

1. 外苑東通り沿いに

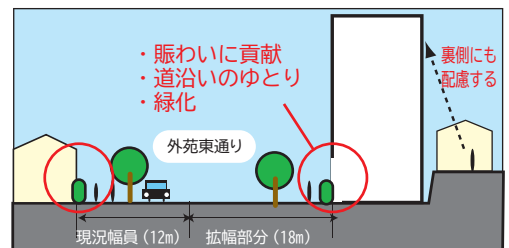
商店街の賑わいが感じられる景観をつくる

景観形成の考え方

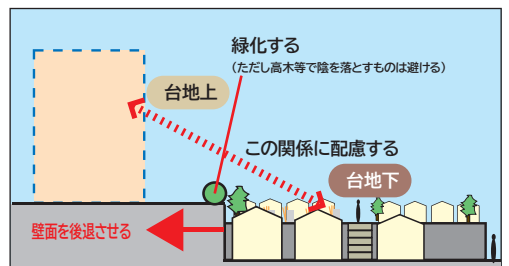
商店街の賑わいあふれる幹線道路沿道の景観をつくる。

具体的な方策

- 低層部*の壁面の位置は後退させ、道沿いにゆとりをつくる
- 低層部は、賑わいを感じられるような開放的な意匠*とする
- 夜間景観に配慮し、シャッターは透過性の高いものとする
- 道路沿いは積極的に緑化を行い、快適な歩行者空間をつくる
- 外苑東通り沿いの建築物は沿道からだけでなく、周辺からの眺望にも配慮した形態意匠*とする



既存の商店街の賑わいを継承し、道沿いにゆとりと潤いを創出する。



台地下に配慮した台地上のまちなみ

2. 台地上のみどり豊かなまちなみを保全する

景観形成の考え方

みどりが豊かで、ゆとりと開放感のある台地上のまちなみを保全する。

具体的な方策

- 擁壁上部の垣・さくは高さを抑える
- 擁壁は周囲と調和し、圧迫感を与えないものとなるよう工夫する
(壁面緑化を行う、自然素材を用いる、分節化を図る など)
- 道路沿いには空地をとり、植栽帯を設ける
- 台地上の寺院や墓地、学校等の樹木は保全する
- 台地上の敷地に立つ建物は、台地下の圧迫感を軽減させるように空地をとり、緑化を行う

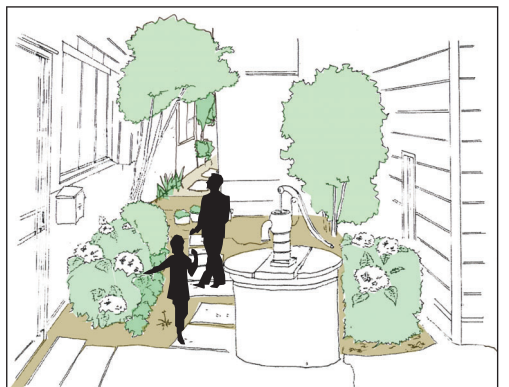
3. 台地下のみどり豊かな路地景観をつくる

景観形成の考え方

台地下の路地沿いでは緑化を行うとともに、まちの貴重な広場空間である井戸端の潤いあふれる景観をつくる。

具体的な方策

- 色彩や素材は、周囲の落ち着いた雰囲気と調和したものとする
- 垣・さくなどは生垣や自然素材のものを使用する
- 井戸端周辺では樹木や草花などにより、明るく潤いのある景観をつくる



身近なみどりを中心にみどり豊かな路地景観をつくる

3-6 市谷仲之町エリア

江戸時代から残る整った敷地割りを、現在も受け継いでいます。直線道路の両側に、比較的大規模な敷地が並びまちなみは、広がりゆとりを感じさせます。全体的に台地上に位置し、東側には外苑東通り沿いの高層建築物、西側には超高層建築物があるため、エリアの景観のまとまりを強く感じます。

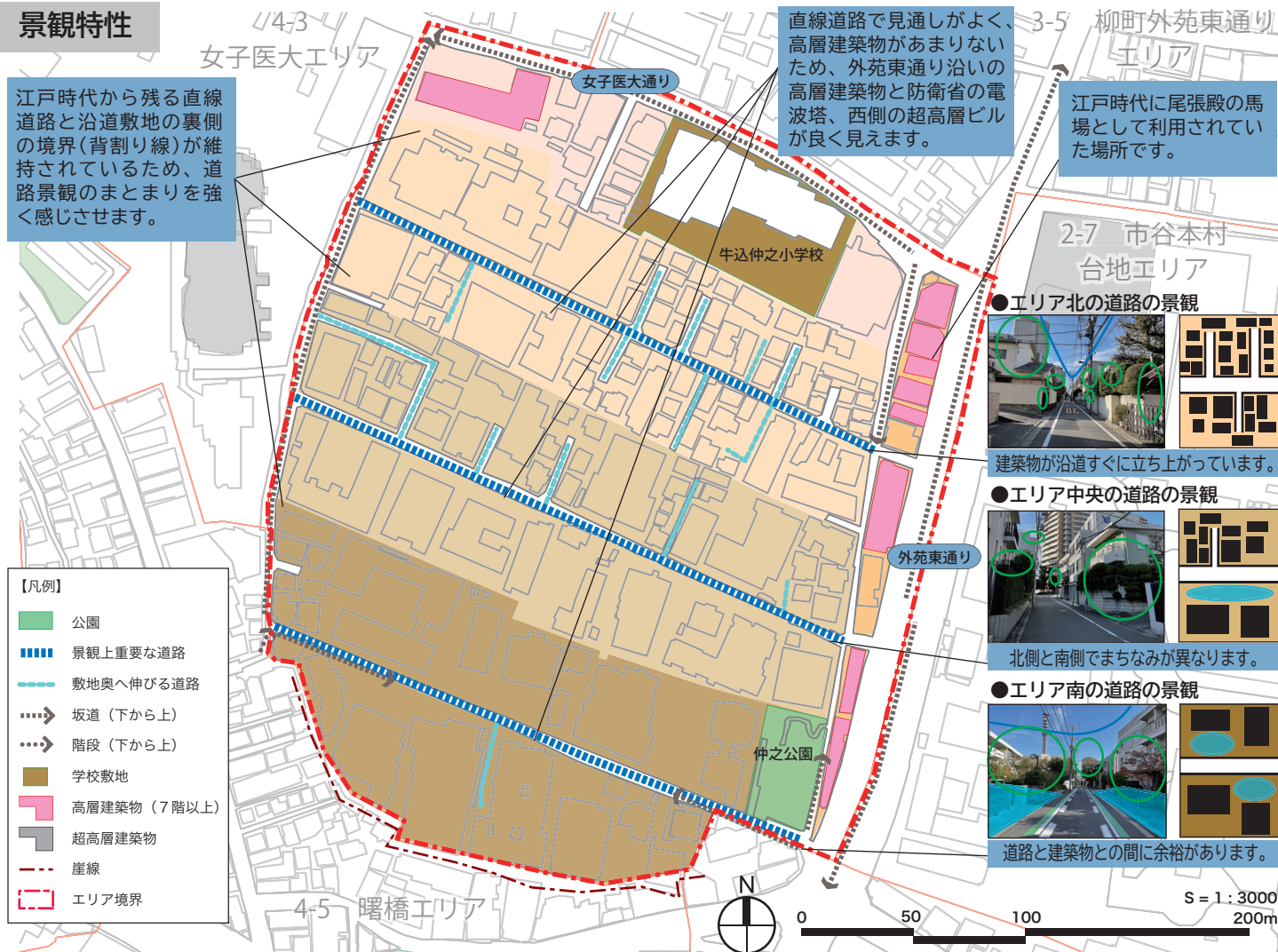


景観特性

江戸時代から残る直線道路と沿道敷地の裏側の境界(背割り線)が維持されているため、道路景観のまとまりを強く感じさせます。

直線道路で見通しがよく、高層建築物があまりないため、外苑東通り沿いの高層建築物と防衛省の電波塔、西側の超高層ビルが良く見えます。

江戸時代に尾張殿の馬場として利用されていた場所です。



1. 直線道路に並ぶゆとりあるまちなみ



東西方向に並ぶ3本の直線道路は、幅員も余裕があり見通しが良好です。この直線道路沿いに並ぶみどりの連続が、エリア最大の特徴となっています。

2. 分割された敷地



特にエリアの北側では、敷地の分割が進んでいます。敷地の中央に道路を入れたパターンが多く、駐車場などが直接敷地に面してきます。周辺との調和を図るための配慮が望まれます。

3. 幹線道路との緩衝帯



外苑東通りに接している街区*は、江戸時代には尾張殿の馬場として使用されていました。この細長い街区に並ぶ高層建築物が幹線道路の喧騒の遮断帯となっています。また、西側にも超高層建築物があるため、エリアの景観のまとまりを強く感じます。

みどり豊かで閑静な住宅が連なるまちなみへ

江戸時代以来継承されてきた敷地割りと、ゆとりあるみどり豊かなまちなみを保全する。

景観形成の方針

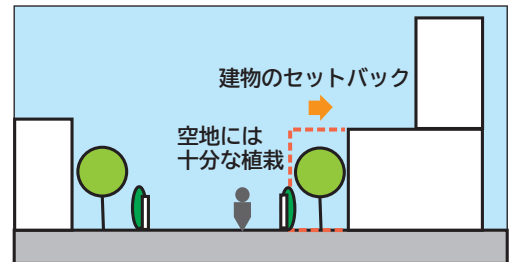
1. 大規模敷地の敷地際に開放的なみどりを連続させる

景観形成の考え方

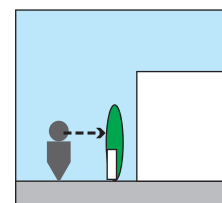
大規模で奥行きがある敷地では、その余裕を**活かして**、まとまったみどり、開放感のある空地进行を連続させる。

具体的な方策

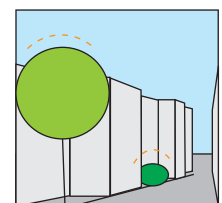
- 壁面の位置は後退させ、道沿いにゆとりをつくる
- 垣・さくは高さを抑え、生垣や閉鎖的でないフェンスとする
- 駐車場、駐輪場などは道路から見えないような配置とする
- 壁面緑化や屋上緑化を積極的に行う
- 積極的にみどりのあるオープンスペース*を設ける



オープンスペースとまとまった植栽の連続



← 目線以下に



隙間利用の植栽

2. 分割された小規模敷地でみどりを増やす

景観形成の考え方

小規模な敷地では、少ない面積でも効果的な植栽を配する。

具体的な方策

- 道路沿いでは低中木を中心に植栽する、または、緑化ブロック等による路面緑化を行う
- 垣・さくは高さを抑え、生垣や閉鎖的でないフェンスとする

3. 外苑東通りと並走する通り沿いのまちなみを明るくする

景観形成の考え方

外苑東通りと並走する通り沿いのまちなみを裏側とならないよう配慮するとともに、公園と連続するみどりを増やす。

具体的な方策

- 外苑東通り沿いでは、並走する通りに対しても裏側とならないよう配慮する
(開口部*・エントランスの設置、設備機器等の植栽による修景*、照明計画 など)
- 壁面の分節化を図り、長大な壁とならないよう配慮する
- 仲之公園周辺では、積極的に緑化を行う

